

学 校 別 力 ・ 標 教 4 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもつて働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒アンケートの設問「学習への取り組みが積極的になった」での肯定的評価の割合	4:85%以上	3	生徒アンケート設問「学習への取組が積極的になった」において肯定的な回答は昨年度より4.4ポイント減の79.7%となった。授業では基礎・基本の定着と個に応じた指導、生徒の言語活動を積極的に取り入れることにより、生徒が興味・関心を高め主体的に取り組めるような指導を継続している。また、特にICT機器を積極的に活用しており、タブレットのさらなる有効活用を図っていく。教員の指導力向上のため、次年度も東京都や大田区の研修会に教員が参加したり、校内での研修を行ったりすることを継続実施し授業力の向上を図る。自主的に学習することができるよう「自主学习ノート」の取組を全校体制で継続して行っていくなどし、次年度85%以上を目標にしてい	A	2	生徒さんの学習への意欲は先生から認められたり、誉めたりすることで大きく変わってくることだと思うので、最新機器などのスキルは自信を持って取り組めるように、先生方は更に練習する必要も出てくるでしょう。chatGPTなど、未知数ですが、期待できることもあるでしょう。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:60%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			40%未満					
た自個 め分別 のら目 学し標 びく5 をい支 き援い しきと 生さる	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒アンケートの設問「学校のきまりを守っている」・「学校行事・学年行事」に意欲的に取り組んでいる」での肯定的評価の割合	4:85%以上	4	「学校の決まりを守って生活している」において肯定的な回答は、昨年度より1.2ポイント増し95.1%となった。ルールを守る大切さや正義感が育っていることがわかる結果である。今後も生徒が主体的に取り組むことができるような場面を増やす工夫をしていく。また、生徒会活動を活性化させ、自治活動を意識させていく。	A	2	学校全体の落ち着いた様子が見え、また、個人個人が服装など個性的ではありますが、学校生活ではけじめをつけているように思えます。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:60%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			40%未満					
安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的 境なを 学つ習 く空り 間と安 全・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	③避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒アンケートの設問「授業に落ち着いて取り組んでいる」での肯定的評価の割合	4:85%以上	4	生徒アンケートの「授業に落ち着いて取り組んでいる」では昨年度より3.4ポイント増の96.0%となっている。毎日の換気、樹木の伐採、wi-fi環境の整備、全教職員による安全点検など生徒がわかるように学習環境を整えたことが高評価となった。	A	4	落ち着いた地域で育まれた、家庭環境が功を奏しているのでは。恐らくは先生方全員で教育環境への働きかけをしていることが、さらに「授業に落ち着いて取り組んでいる」ポイントを上げているのでしょう。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:60%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			40%未満					
学地学 校域校 をコ・目 つミ家 くユ標 リニ・ まテ地 すイ域 の核連 と携し て協働 による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	保護者アンケートの設問「子どもは、学校生活に満足している」「学校が発行する印刷物(お知らせ・便り)などはわかりやすい」「子どもは落ち着いた授業に取り組んでいる」での肯定的評価の割合	4:85%以上	4	保護者アンケートの結果、「子どもは学校生活に満足している」(80.3%、昨年度比5.2ポイント減)。「教職員は子どもの悩みなどを親切に聞いてくれる。」(70.9%、同13.1ポイント増)になっている。昨年度の反省を活かし、個別に丁寧な時間をかけて指導したことが良かった。相談しやすい人を限定することなく、どの教員でも共通認識の基で指導していく。生徒が相談しやすい環境を整え、保護者の学校に対する期待が大きいことを受け止め、これからも充実した教育活動を行っていく。また、学校支援地域本部の協力のもと「いのちの講演会」「職業人講話」等、実施することができた。今後も地域と連携を図り、よりよい教育活動を実践していく。	A	2	「教職員は子どもの悩みなどを親切に聞いてくれる」が13.1ポイントも上がっていることは驚きで、先生方の努力が表されているものだと思います。今後、「おおたの未来づくり」というカリキュラムが中学校で必須教科となります。子どもたちが住んでいる地域を意識するきっかけとなり、自らのアイデア、考えが地域そのものを作ることを実感してもらえる機会となり、地域全体にとってもプラスに働くことを期待しています。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:60%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			40%未満					
学地学 校域校 をコ・目 つミ家 くユ標 リニ・ まテ地 すイ域 の核連 と携し て協働 による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	保護者アンケートの設問「子どもは、学校生活に満足している」「学校が発行する印刷物(お知らせ・便り)などはわかりやすい」「子どもは落ち着いた授業に取り組んでいる」での肯定的評価の割合	4:85%以上	4	保護者アンケートの結果、「子どもは学校生活に満足している」(80.3%、昨年度比5.2ポイント減)。「教職員は子どもの悩みなどを親切に聞いてくれる。」(70.9%、同13.1ポイント増)になっている。昨年度の反省を活かし、個別に丁寧な時間をかけて指導したことが良かった。相談しやすい人を限定することなく、どの教員でも共通認識の基で指導していく。生徒が相談しやすい環境を整え、保護者の学校に対する期待が大きいことを受け止め、これからも充実した教育活動を行っていく。また、学校支援地域本部の協力のもと「いのちの講演会」「職業人講話」等、実施することができた。今後も地域と連携を図り、よりよい教育活動を実践していく。	A	2	「教職員は子どもの悩みなどを親切に聞いてくれる」が13.1ポイントも上がっていることは驚きで、先生方の努力が表されているものだと思います。今後、「おおたの未来づくり」というカリキュラムが中学校で必須教科となります。子どもたちが住んでいる地域を意識するきっかけとなり、自らのアイデア、考えが地域そのものを作ることを実感してもらえる機会となり、地域全体にとってもプラスに働くことを期待しています。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:60%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			40%未満					
学地学 校域校 をコ・目 つミ家 くユ標 リニ・ まテ地 すイ域 の核連 と携し て協働 による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケートの設問「子どもは、学校生活に満足している」「学校が発行する印刷物(お知らせ・便り)などはわかりやすい」「子どもは落ち着いた授業に取り組んでいる」での肯定的評価の割合	4:85%以上	4	保護者アンケートの結果、「子どもは学校生活に満足している」(80.3%、昨年度比5.2ポイント減)。「教職員は子どもの悩みなどを親切に聞いてくれる。」(70.9%、同13.1ポイント増)になっている。昨年度の反省を活かし、個別に丁寧な時間をかけて指導したことが良かった。相談しやすい人を限定することなく、どの教員でも共通認識の基で指導していく。生徒が相談しやすい環境を整え、保護者の学校に対する期待が大きいことを受け止め、これからも充実した教育活動を行っていく。また、学校支援地域本部の協力のもと「いのちの講演会」「職業人講話」等、実施することができた。今後も地域と連携を図り、よりよい教育活動を実践していく。	A	2	「教職員は子どもの悩みなどを親切に聞いてくれる」が13.1ポイントも上がっていることは驚きで、先生方の努力が表されているものだと思います。今後、「おおたの未来づくり」というカリキュラムが中学校で必須教科となります。子どもたちが住んでいる地域を意識するきっかけとなり、自らのアイデア、考えが地域そのものを作ることを実感してもらえる機会となり、地域全体にとってもプラスに働くことを期待しています。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:60%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			40%未満					
学地学 校域校 をコ・目 つミ家 くユ標 リニ・ まテ地 すイ域 の核連 と携し て協働 による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	④教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、生徒の活動をホームページに公開するとともに学校便り等を地域に配布し、情報を発信していく。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケートの設問「子どもは、学校生活に満足している」「学校が発行する印刷物(お知らせ・便り)などはわかりやすい」「子どもは落ち着いた授業に取り組んでいる」での肯定的評価の割合	4:85%以上	4	保護者アンケートの結果、「子どもは学校生活に満足している」(80.3%、昨年度比5.2ポイント減)。「教職員は子どもの悩みなどを親切に聞いてくれる。」(70.9%、同13.1ポイント増)になっている。昨年度の反省を活かし、個別に丁寧な時間をかけて指導したことが良かった。相談しやすい人を限定することなく、どの教員でも共通認識の基で指導していく。生徒が相談しやすい環境を整え、保護者の学校に対する期待が大きいことを受け止め、これからも充実した教育活動を行っていく。また、学校支援地域本部の協力のもと「いのちの講演会」「職業人講話」等、実施することができた。今後も地域と連携を図り、よりよい教育活動を実践していく。	A	2	「教職員は子どもの悩みなどを親切に聞いてくれる」が13.1ポイントも上がっていることは驚きで、先生方の努力が表されているものだと思います。今後、「おおたの未来づくり」というカリキュラムが中学校で必須教科となります。子どもたちが住んでいる地域を意識するきっかけとなり、自らのアイデア、考えが地域そのものを作ることを実感してもらえる機会となり、地域全体にとってもプラスに働くことを期待しています。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:60%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			40%未満					
学地学 校域校 をコ・目 つミ家 くユ標 リニ・ まテ地 すイ域 の核連 と携し て協働 による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	⑤生徒会主催アルミ缶回収運動を地域にお知らせし、地域のボランティア活動に貢献する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケートの設問「子どもは、学校生活に満足している」「学校が発行する印刷物(お知らせ・便り)などはわかりやすい」「子どもは落ち着いた授業に取り組んでいる」での肯定的評価の割合	4:85%以上	4	保護者アンケートの結果、「子どもは学校生活に満足している」(80.3%、昨年度比5.2ポイント減)。「教職員は子どもの悩みなどを親切に聞いてくれる。」(70.9%、同13.1ポイント増)になっている。昨年度の反省を活かし、個別に丁寧な時間をかけて指導したことが良かった。相談しやすい人を限定することなく、どの教員でも共通認識の基で指導していく。生徒が相談しやすい環境を整え、保護者の学校に対する期待が大きいことを受け止め、これからも充実した教育活動を行っていく。また、学校支援地域本部の協力のもと「いのちの講演会」「職業人講話」等、実施することができた。今後も地域と連携を図り、よりよい教育活動を実践していく。	A	2	「教職員は子どもの悩みなどを親切に聞いてくれる」が13.1ポイントも上がっていることは驚きで、先生方の努力が表されているものだと思います。今後、「おおたの未来づくり」というカリキュラムが中学校で必須教科となります。子どもたちが住んでいる地域を意識するきっかけとなり、自らのアイデア、考えが地域そのものを作ることを実感してもらえる機会となり、地域全体にとってもプラスに働くことを期待しています。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:60%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			40%未満					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○「学校関係者評価」「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。